黒白日誌

特別
14
1919
123

38- 8923

以下
5丁
白紙

176401

[illegible]

（前見）扨又今回を限り[illegible]記録を論様
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

正味多代 二三万四
[illegible]二万五千四
[illegible]
[illegible]四万五千四
[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

至人を記せる伝奇の文を見るに（漸やうやく
伝奇の文と列伝の文を同伝し記せるものの
ようなる文を伝奇の記すを載せたるものなりしを
て此上ようなる文を開き出せるものなりしを
出すもの出さしめたるも伝奇の人の言すること
と称信を開き進ずるの文なるの和語なるを
のみと文人の伝奇を左のごとくなるも
文なる所なる伝奇を左のごとくなるも
家の伝奇なるを以て此の物語の題を
に情深風流なるを以て伝奇を写し
ものを書記せるものも書ひて大分傳を抜し
けるを以て元のごとくなるは十篇内の自ら

[illegible]

[illegible]

[illegible]

この土地の事なれども、角地の作人の苦労
事仕と乗り、一下化りとなりて世をとるこのうえ
の稼ぎも、皆んの稼ぎも世を立てるとなんぞ情なく
なりて、機械のみなりの使ふもやはり扱ふいと
危険あるを、注意すべきなり也

七月百

おなじく人を見る百姓集落のうち白髪若き人と問ふ
（三百目の男なること）なるべし女の今は姿の家を探すの
く

前田を土五と問ふ問のぶきまり問んとしが
なのまとまるまで行しうを聞くこと、おのまるを
石塔の趣きを文ちを撮れてまるし石仏を探ら
ふ〜おなじまを訪く石塔の縁んとなを知ること
る十仏の関係なるこれをもいまを市名家
田塔の趣んの花を聞き聞音をいろいろの問答
をちまちまち自腹をかつてとり奮ふんをまるの

と問くしる者し来れ郎色位のあるべくハウも行うと
ん[illegible]ことの[illegible]行却止ちとのずもこれも面白ちる
[illegible]
文芸の[illegible]の[illegible]を[illegible]流れ[illegible]
の[illegible]を[illegible]大義[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

上京して[illegible]と西園寺と対面を始める
[illegible]と[illegible]し自然と[illegible]
自然の[illegible]なれば[illegible]
[illegible]

[illegible]

[illegible]

方を尋ねまゐらせと仰せし旦つ奇なんくも文太の法華堂と
ゝとせし事縁のうへ人と成くさんことを恐ありとて
擬紀者を鎌田先生
此方故立流木伝清水子の高中と使る
あき平事文太のあ指と情抜ゝたゝゝ此
の所多の仕事をたゝ宴ろ程とゝゝもたゝ
るの紀ゝたゝんば文太のうるゝゝ
分縁しあふのたゝゝ文太たゝ多を抜ちん
たゝゝも能ゝたゝし旦つ文太を立ゝ思ひけん
たゝん或役の妹壱を好ち処けたゝゝを受信
せたゝゝ所と情宴を回たゝうゝ所立ゝ
ゝ動産業を暴ゝ人ゝ得ゝて文を

頼ゝ外ゝとゝいたゝゝ所ゝは立
ゝ此事ゝ文を縁ゝんを云いたゝゝ法ん
ゝ紀文ゝ文ゝ文太ゝ兵角ゝを烟ゝ思
ひ事ゝ社位を立ゝ所ゝ自ゝ多ゝ年ゝ
たゝゝ文ゝ兵ゝたゝゝ所ゝ一
巳の文ゝを獨抜ゝ仕ゝ新紀天ゝ石ゝ文
文紀ゝ壇ゝ法ゝ文ゝ文ゝ
所ゝ所ゝの所ゝ文ゝ推紀中ゝ所ゝ
を使ゝ所ゝ文ゝ文ゝの酒ゝ法酒
ゝ法ゝ文太の多指を陵抜ゝ兵ゝ事ゝ
ゝ宗ゝを使ゝ文ゝ所ゝ紀ゝ自ゝ数ゝ
ゝゝの十ケゝゝ事ゝ文ゝの所ゝと

解釋して

金をうをまきに絡うて置く金を清水にて洗ひ絡
の清水に投ずるを思ひ又拾ひ
故あるを以て卵のまを拾ひ公平の位位を立て清水
の廚門をくし生をつかうを以て金を受
取るを一つうをと云へる

吹抜長四尺に細しごとく一方なる丸の形を
叫のをを以の玉をうを拾ひ金を拾ひ
取面をを、先ををうを高を拾ひ海出をんへ金を
を細を出をんを拾を生て拾ひ拾ひを文を拾
取るを拾を拾生ををを拾ひ金を拾を拾
拾ひを行をを拾を拾を拾ひを金を

を拾をを拾を拾を金を高拾のみを文
を拾を拾を生を拾を拾を拾を拾を拾
拾を拾を拾を拾を拾を拾を拾を拾を
拾を拾を拾を拾を拾を拾を拾を拾を

天を人を拾を拾を拾を拾を拾を拾を拾

文左衛門殿より寄越し候書付の内に、
[illegible]文左衛門殿より思ひ寄候事
[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

三万四千
四万五千円　〃　徳川慶喜
七万円　〃　[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]（実は本書本印）[illegible]左のごとき意味の言

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

の決す

[illegible]

[illegible]

[illegible]

其の結構に注意すること且つ新聞紙の多きを日々に購読
しそれを掛紙にして文をしめす此終
湯屋を[illegible]へ教ゆあと湯屋にて[illegible]
酒屋を初めとして[illegible]
たの一話し活物語の[illegible]
文をしてまた新聞[illegible]
をあれこれの結果を新聞[illegible]
[illegible]
をもって文を[illegible]
を高らかに活物語を[illegible]
以前のもの[illegible]
[illegible]

[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

[illegible]

十九

[illegible]

十八

[illegible]

[illegible]

又北海の候補者にて候ハ[illegible]

[illegible]流と[illegible]

[illegible]

[illegible]

本書を不許可とするに其理由を説かんとするも其理由を説くべきやを問ふ余
こゝに於て拙稿を以て指摘するに本書は「既成改造」に関する問題上本書の文
脈を通じて明瞭なる事実あるを以て断然不許可の理由を示すべしと答ふ
文大改造を二人に託したる理由は拙稿指摘の
如く本日新聞紙上に出す
辻川の言葉を大要左の如く述べて出す
先日の会合に市長四郎氏出席
此奥向を言ふまでもなく日本改造の
時期を指定して而して
22 大阪毎日

余は辻川の言葉を切迫なる如く感じ
能改を書するの故に
書面にて乃ち市長の書記
七人を選び先無
り北浜支社の会合に上る所を出で
行を訪し始めて
清水を辻川の五十嵐を
うと立ち出で都の高見こつき、此者を交七、辻川
五十嵐を面会の所に
を通ずることとなる
陸す

念七

[illegible]の来書を見て自分に於て手を尽したる
末に市島氏の[illegible]依て細に調べつゝあり三揖[illegible]
[illegible]丈一[illegible]報ずんと
[illegible]来書金一北[illegible]
防線[illegible]の[illegible]を行いるもこれを[illegible]流[illegible]
の活路を[illegible]
[illegible]漢を[illegible]流を大[illegible]
[illegible]の防[illegible]を[illegible]
二十八名中立[illegible]名[illegible]
[illegible]流の[illegible]
大の[illegible]自ら揣[illegible]

たる影響を謂うべきを得ず、余の四五年来の経験に徴して、ある時は文太郎の

心こころ動じて、ある時は海しとなる観あるべし、文太郎の

ものの日記に、名誉を謂ふて

金九郎

富大人の商を始め、大人を高尚の別途を心得無けれども

余の仕合の都合、話し出しうるも、余も大概事情を陳述

しまして、大人を説し出ひたるも、其の大要の如

く、先ず最初の話、事務を六ヶ敷ものとなす

所を於て、西郷氏に対し、自己の説けども事務の如き敷

と、大きに北海道等中の様子、こんな

ものとなるべし、一大事也、言葉

今日富士まんどの話をする所、或を意義ありと

一先ず、一のらざるべし、一概を先ずの一のうち通知あ

る後人や余の北海来たり出しを単に余者の上の論

をなすべきの人の結論中、人とも

うもの若干さんなる陸を対する費法をもこれ

ものをやうなるを出なを体なるを

至て和しそを思つもあるもそう

角を在のおのもの国ものもあるもそう

ば野月人の商代をなる行なるを雖無を出を

み若ばの商品を出)をなるを以て

なるもの決しもこれを用ふる

まるもの様方家の家法をもを

野月人を主為商会を行なるを

[illegible]

[illegible]

[illegible]

本会東京市内に於て所有する不動産及市内宅地
池地及郊外宅地山林等二十五万四千八百円市内宅
地九千四百円及本書に之を記載する名義にて所有
市内家屋二千二百円（内訳略）を以て実際
代表伊藤博文名義にて所有し而して動産を本人名
義にて日本郵船株式会社株式（株数四万八千円）を所有せられ郵船
会社株式五千円ノ内ニ於テ又文右衛門名義
にて郵船株式（株数）二十一万七千九百円
（株数）及東京瓦斯株二百株（株数千九百円
株数）を以て伊藤博文名義にて所有
郵船株式六万八千七百

慶應大学蔵

円（株数）等を前記本人名義不動産中
に含まれ郵船株式七万貳千六百円瓦斯
株式千九百円内大部分を占める
文右衛門名義に係る郵船株式及東京瓦斯
株式は本人に十五年間を経て
譲渡したるものにして其六月中定期市場を
経て郵船株式を売却せんとの
方法を以て郵船株式の
方を経て郵船株式を譲渡
文右衛門名義を用いて
名義動産を悉く本人の

名義のものを以て[illegible]
市内に於て[illegible]
各方[illegible]
[illegible]
義を[illegible]
十五日[illegible]
[illegible]元引[illegible]

市島文[illegible]
[illegible]
[illegible]
本人を市嶋徳[illegible]

[illegible]
[illegible]
[illegible]四五[illegible]年の株[illegible]
山中清兵衛[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

[illegible]

文芳の得意とする所なり

[illegible]

七月[illegible]

北面仁　郭巨二九〇一七[illegible]

或信スベキモノ調査ニ依レハ合計点ノ順序ニテハ得点ハ不明ナルモ左ノ順序ニテ当選スベキ模様ナリト云フ

久須義
川上
坂口
中川
竹越
荻野

以下ハ未詳ナルモ東京ハ未位ニテ当選シ大水相馬之次当選スベシト云フ仮ニ順序ヲ相馬スレハ左ノ如クナラン力

丹後

総数五本ト打算ス		
総数ノ五分ト打算シ関矢三五〇須藤三五〇、蚕食セルベキモノト見做ス	一五三七	六 荻野九門
北浦一一〇〇 岩船四〇〇ノ中ヨリ酒造組合ノ得点半部ヲ減ス	一四三七	九 斉藤和平太
北浦一三〇〇、岩船五〇〇、中ヨリ前同断	一三七〇	十 相馬一郎
北浦八〇〇、岩船一〇〇、東浦五〇、酒造組合得点ヲ減セス	一六七〇	五 丹後直平
庭派全部ト中立半部	九五〇	雨嶋文太郎
庭派全部ト中立半部	一七四七	三 坂口仁一郎
自派全部ト中立半部	一三一六	十一 須藤時俊
北浦一〇〇、	一二六七	十二 大水貞一
庭派中二百ヲ減シ中立得点五〇〇、	一〇三二	西潟為蔵
自派全部中立残部 古志一〇〇、		
南魚沼一〇〇、其他各所ヨリ一〇〇	二〇三七	二 久須義秀三郎
庭派全部トシ中立ヲ加ツス		

大関　矢島　相馬　斉藤　葉

三島自派之分ト古志自派ノ中ヨリ西潟ノ一〇〇、
ヲ減シ醸酒組合得票四七二ヲ加フ　一九四七　二　川上元次郎
古志中五全部ヲ加フ　九八五　比留秀治
刈羽産業ノ之分ト北蒲原ヨリ一〇〇、
其他ヨリ一〇〇ト見做ス
刈羽一〇〇、同産派二割三島一五〇、西蒲　一五〇四　七　関矢儀八郎
五〇、中魚三〇、東頸城二〇〇、トシ
酒造組合全部ヲ減ス
北魚沼中魚沼産派全部ト南魚沼、　一二三九　桑原重正
産派半部
中魚沼自派半部刈羽二五〇、東頸城二〇〇、　九二三　九山嶺峡一郎
南魚沼二〇〇、各郡ヨリ二〇〇、
北頸城産派九分　東頸城産派半部トシ　一四四四　八　中川源造
酒造組合二〇〇ヲ減ス
西頸城産派全部ト自派半部　中頸城産　八八二　五味川吉雄
派一分トシ　酒造組合五〇ヲ減ス
中頸城自派全部　西頸城自派半部トシ　一六六〇　四　竹越與三郎
酒造組合一五〇ヲ減ス
頸城三郡四〇〇、刈羽八〇、古志一二〇、
三島二二〇、南蒲二〇〇、中蒲一〇〇、西蒲六〇、
北蒲一六〇、岩船東蒲一〇〇、計一五四〇、
右内ヨリ三割ヲ減ス是レ各郡ノ見込穀算ノ
内得ヒタルヲ以テナリ　一〇七八　高橋慶治郎
前記得点ハ酒造組合ノ穀算二相ル

刈羽ヨリ得ラルベキ見込ハ打算セス

備考

稟権ハ二割ト打算ス
酒造組合得点穀算ヨリ減シタルモノヲ醸酒組合ノ得点ト見做シ
各自ノ得点ヨリ酒造組合ノ穀算ヲ減シ産自両派トモ折半ス

八月四日

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

樺太し後果不 [illegible] 廿二名
及野北蝦夷中之山名との色
[illegible] 永泊永国の報す
[illegible] 不[illegible]
第一南蛮[illegible]代当者田
[illegible] 元さい及廿名
乗[illegible] 故来て如形
非運[illegible] 運動の方法

[illegible] 十[illegible]
又[illegible]の黄白色[illegible]
[illegible] 国[illegible]
要[illegible]中[illegible]氏候神[illegible]
熱[illegible]故代醗[illegible]
こと方ハ第[illegible]
最[illegible]国[illegible]
[illegible]

加賀川雄偉の子として加賀の議
会議員に選ばれた因縁を以て過
りし日を偲ぶ故代議士
暫くお近所宅に寄宿
中立会（源郎村 味方引人
心の弁を
義者中岸と上諏訪と

是に果して過半数
を得るを得
ものと信ぜ
先生大快哉
如何に報道を
書き
畏こ
中諏訪
正尾

八月廿日

大江乙亥ハ文政一ヶ條ハ市場ニ於ケル市場取締の
也和日を採ることを得たりとて明治初年の文氣さ
へきゲうゞりを加へくまこと云ふ、あれは山形の
羅紗と詩編を調ふ為ニ出張して報ず
京師走馬北嶺を見ル候補者ハ生ず今是
又大江の報ずる
京師発ニ出ずるを北海道
移ハ、北海道ハ偽ニ之の移ハ偽ニ
ハ出ずるを、所の者ハ之の
と無数の高岳ハ三人竹
或ハ高岳ハ

八月分

文太流軍勢品川沖迄英艦十数艘
掛引するなれども西洋式の高田藩兵
[illegible]
しかるに[illegible]を[illegible]

文太流の二三十名の乗組を生捕り品川沖[illegible]
(市内の次第)も入院せるも[illegible]市場の[illegible]
書面[illegible]人[illegible]の掛引上所市
鳴[illegible]ひ文太の三人の別邸[illegible]の結果
こうも一所[illegible]文太流大海[illegible]
二三名の[illegible]減し[illegible]
使嗾[illegible]

三人一さ赤馬流の先者掛の
部古来芸三流の金子帳を青木自分元祖
一説に四方流を称すると西方流
なる事定かあらずと赤馬流のものやいろ〻
うしを猫と文芸流の目録伝授
の小細工人の業とせる也中国の弱者の
僧ゐる十二四三三十数能の化粧とする
と示しまきるを以て特に
人格性なる人を馬鹿なるものと且つ
抑もこれを以て世を図りそ
ちらや必ず倫理あるべき
とまるべき文芸を修得

且つ古代ものとまるべき一ゐる事あるべき
七月を弱る他の修得ゐる一ヶ月能あるべき
を初めるべき弱者ニゐる中一芸能の化粧
二十四芸ものをもけしうあ奴
ゐると考ふるものをけあるべき面倒
一人ものを十四の生を掛を前きまんば
あるべき掛引の法を泥ゐるべきと考へ
弱る能をいしきを伊者掛きを泥ゐる
ぬるべきおるべき或をウカアイうしみとも所ゐる
勝産ばしを能ゐ
文芸のものを結ゐるべき所
これ芸四の義務の者を新りゐる

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

八月十日是夜開札の[illegible]果也

[illegible]

九月廿日　異国船来航[illegible]

[illegible]

文久元辛酉の[illegible]二十[illegible]人の[illegible]

金[illegible]文久元年[illegible]生せしめんとする文久元

上京、是夜也[illegible]

実のちく文久元年[illegible]

崎[illegible]

の[illegible]

[illegible]中止[illegible]

[illegible]市場[illegible]

[illegible]

一[illegible]

[illegible]我々の[illegible]

[illegible]八日[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

一[illegible]

一[illegible]

一[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

一[illegible]

[illegible]

一[illegible]

[illegible]

一[illegible]

[illegible]

石行俗ゝ[illegible]一家の[illegible]家族[illegible]
[illegible]を[illegible]石[illegible]俗[illegible]
[illegible]行[illegible]の[illegible]を[illegible]
一[illegible]の[illegible]を以て文太を[illegible]
[illegible]人[illegible]
[illegible]人の[illegible]文太を[illegible]一切口[illegible]
[illegible]
一自[illegible]氏[illegible]二四[illegible]
[illegible]の行[illegible]大[illegible]
[illegible]氏[illegible]
[illegible]氏[illegible]
一[illegible]俗[illegible]
[illegible]

[illegible]の[illegible]文[illegible]
[illegible]
[illegible]大義を[illegible]
[illegible]
[illegible]氏[illegible]之を
[illegible]
一[illegible]
人[illegible]
[illegible]
[illegible]
一氏[illegible]文太の[illegible]
行[illegible]大[illegible]

[illegible]

一海老屋氏[illegible]

と[illegible]

一若し上京[illegible]上京を促さるゝ[illegible]

[illegible]

一而して抑も市場氏の逆夢は文太[illegible]本体の文太

排斥問題[illegible]市場の大改革問題[illegible]

やがて[illegible]

一文太排斥の事の出来[illegible]文太排

斥を出[illegible]初の月の是[illegible]

[illegible]

家の大改革問題[illegible]大改革の行[illegible]

文太の出[illegible]排斥せ[illegible]

文[illegible]

[illegible]

一[illegible]の大[illegible]文太の家[illegible]

[illegible]

所[illegible]

[illegible]

[illegible]

一徳[illegible]

[illegible]

[illegible]大馬[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

（下略）

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

宝覧閣

千ゝ屋ゟ郵船株三千株計りの内一千株小宮
林と川崎ゟ五千株を乗替をゝゝゝんとゝゝ夫
ゟこうあるゝゝ横山商店を野本商店との間ゝ今ゞ
乗替の儘ゝ商内をゝゝゝとの事さあるも

明治三十五年七月

上海趙華

[illegible]